

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

## 【事業の目的及び概要】（事業全体概要（本事業で構築する教育プログラムと達成目標））

未来の人口減少・少子高齢化社会や PostCOVID-19 の地方創生を見据え、「移動・交流・体験」の価値を再定義し、観光や生活など地域の基幹産業を構成するモビリティ、食、施設活用の新領域を創造する人材を育成する。本事業の推進にあたっては、信州大学・富山大学・金沢大学の3大学を中心に広域的な産学官連携プラットフォーム「円陣」を構築し、協働で「サーティフィケーション・プログラム:ENGINE」を構築する。カリキュラムは以下の3フェーズで構成する。

- 1)リテラシー強化 : ハート・ドリブンかつデータ・オリエンテッドな問題分析能力を育成
- 2)キャリア形成 : 交流イベント等を通じて、地域の特徴ある企業や多様な働き方を知る
- 3)実践力強化 : 地域企業での課題解決型インターンシップを実施

上記を通じて令和6年度(最終年度)には、総受講者数:380名、地域定着率:40%を目指す。

令和2年度(事業初年度)は、主に3大学3県の事業推進体制構築に取り組んだ。事業のコンセプトである地域の基幹産業を再定義・革新する人材育成プログラム「ENGINE」を参加大学、事業協働機関と共有し、創新・連繋・突破できる人材像を出口企業と検討し始めた。また、上記の3フェーズを3大学で共有し、それに基づいたカリキュラムマップを各大学で作成し、教育プログラムの骨格とした。令和3年4月から学生募集を始め3大学が連携して事業を推進した。

## 【体制構築】

ENGINE教育プログラムの事業協働機関に参画する行政、産業界(団体)、大学との連絡調整を行い事業内容の詳細や評価指標を設定し協定を策定した。また、事業の推進事務局として「ENGINEプログラム推進コンソーシアム」を設立した(令和3年2月20日に第1回、令和3年7月8日に第2回のコンソーシアム会議を開催)。さらに、上記コンソーシアムにおいて、3つのワーキング・グループ(WG):「ENGINEカリキュラム検討WG」「ENGINE人材能力評価指標検討WG」「ENGINE広報戦略WG」を立ち上げ、教育プログラムを精緻に検討し、学生や教員、地域・全国に情報発信する環境も構築された。また、これらWGを中心に、地域企業等とのネットワーク「円陣」の構築を進め、実践的な学び(PBL(Project Based Learning)や課題解決型インターンシップ等)に必要な地域・企業の事業フィールドの確保をした。令和3年5月から「ENGINE人材能力評価指標検討WG」を展開し「産学協働人材評価WG」とし、さらにキャリア形成フェーズの準備として「キャリア形成イベント検討WG」を立ち上げ、学生実行委員による「大しごとく実行委員会」を設けた。

## 【研究開発】

出口企業となる地域企業にアンケートを行い、企業が求める、育成すべき「変革人材」が備えるべき能力やマインドについてヒアリングを実施した。大学、自治体、企業によるワークショップ・意見交換を行い、「ENGINE人材能力評価指標(以下、ルーブリック)」の8項目を設定した。これに基づいて、目指す人材像のモデルとなる学生を育成すべく、企業と協働し「産学協働人材評価WG」で、ENGINEインターンシップのプロトタイプの開発を始めた。

## 【教育活動】

3段階のフェーズ、ルーブリックなどに基づき、各県/各大学のリソースやフィールド、ネットワークを活かし、教育プログラムを設計した。各大学で授業カリキュラムを設定し、担当教員の配置などを行った。共同開講科目として3大学を接続して実施する「地域のトップリーダーを繋ぐ」を開講し、189名の受講生を得た。

## 【広報】

事業概要、教育プログラムを学内、企業・自治体、学生に周知するためのWebページやリーフレットなどの広報ツールを整備した。事業の核となるコンセプトや実施体制、プログラム実施イメージを伝えるための情報を整理し、同時に学内調整、関係機関への協力を依頼した。3大学共通のポータルサイト・各大学ごとの運用にあわせたサイトを構築し、教員や学生がそれぞれの目的に合わせて情報を参照しやすい環境を構築した。また、動画媒体等による説明コンテンツを充実させ、各事業等も動画でアーカイブすることで表面的な情報を補完する丁寧な情報発信を行い、参加する学生、教員、地域の方々の理解を深めることが可能になった。

ENGINEプログラム(3大学共通Webページ) <https://engine-prgm.jp> (各大学のWebページも整備済み)